

大学馬術競技選手と国内一流馬術競技選手の競技意欲及び心理的競技能力の比較

著者	吉村 喜信, 出村 慎一, 山次 俊介, 長澤 吉則, 小林 秀紹
雑誌名	サーキュラー = circular
巻	60
ページ	47-52
発行年	1999-01-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/29365

大学馬術競技選手と国内一流馬術競技選手の 競技意欲及び心理的競技能力の比較

吉村 喜信¹⁾ 出村 慎一²⁾ 山次 俊介³⁾
長澤 吉則⁴⁾ 小林 秀紹³⁾

Comparison between college equestrian competitors and top equestrian competitors on competitive motivation and psychological competitive ability

Yoshinobu YOSHIMURA ¹ Shinichi DEMURA ² Shunsuke YAMAJI ³
Yoshinori NAGASAWA ⁴ Hidetsugu KOBAYASHI ³

Abstract

The purpose of this study was to compare college equestrian competitors (college competitors) and internal top equestrian competitors (top competitors) regarding motivation toward a competition or a practice (competitive motivation), and mental toughness in the competition (psychological competitive ability). Taikyo Sports Motivation Inventory (TSMI) and the Diagnostic Inventory of Psychological Competitive Ability 2 (DIPCA. 2) were administered to 84 college competitors in the Chubu block and 13 top competitors rank higher than 30 in internal point rankings.

There were significant differences in all items of TSMI, except for coaching ability and inability to adapt to coaching, and top competitors had superior motivation toward competition or practice. Top competitors had especially high athletic achievement motivation and self-control, and low competitive anxiety. There were significant differences in all items of DIPCA. 2 except the intention to win, and top competitors were superior in psychological competitive ability. Top competitors were especially superior in mental state stability, concentration, confidence, and strategy ability. From the above results, it was inferred that college competitors have inferior competitive motivation and mental toughness in competition, and top competitors excelled in the psychological state as it relates to equestrian competition.

1) 福井工業大学
2) 金沢大学教育学部
3) 福井工業高等専門学校
4) 秋田県立大学短期大学部

1. *Fukui University of Technology*
2. *Kanazawa University, Faculty Education*
3. *Fukui National College of Technology*
4. *Akita Prefectural College of Agriculture*

I. 緒 言

馬術競技のパフォーマンスは審査員によって評価されるため、選手は演技中の過失に対して、非常に神経質になる傾向がある。また、馬術競技は相手選手やチームと競い合い、闘志や勝利意欲を前面に押し出す競技種目とは異なり、競技場面における各種プレッシャーを克服し、自己の能力を最大限に発揮することが必要とされる^{15, 16)}。競技特性の点からいえば、馬術競技は、課題に対する正確、且つ素早い状況判断などに基づき細かい運動の調節が要求される競技である。よって、闘志や勝利意欲を高めて試合に臨むより、人馬一体を達成するために、冷静に自己統制して試合に臨む方が高いパフォーマンスが期待できる競技といえる。このため、馬術競技は、心理的要因が競技パフォーマンスにより直接的に関与し、心理・生理的プレッシャーにより、パフォーマンスは大きく左右されると考えられる。我々は先行研究において、大学馬術競技選手（大学選手）の性格特性、競技に対する意欲、及び競技場面における心理的競技能力について検討し、大学選手は競技に対する意欲、及び心理的競技能力ともに一般運動選手に比較して低く、心理面を強化する必要性を示唆した¹⁶⁾。しかし、大学選手の競技経験年数が少ないために馬術競技選手に必要とされる心理的適正が不十分であることや馬術競技が他の競技種目とは異なる競技特性を有していることなどが影響していると考えられた¹⁶⁾。

本研究では、馬術競技において重要となる心理的要因を明らかにする基礎資料として、一般

大学馬術選手（大学選手）と国内一流馬術選手（一流選手）の練習や試合に対する意欲や価値観、及び試合場面での精神力について比較することを目的とした。

II. 方 法

1. 対象

調査対象者の大学選手は中部地区の大学馬術部に所属する学生84名（年齢 20.4 ± 1.33 歳）であり、一流選手は国内ポイントランキング上位30位以上の13名（年齢 37.1 ± 9.43 歳）であった。大学選手のほとんどは大学に入学してから馬術競技を始めており、平均競技経験年数は 1.4 ± 1.53 年であった。馬術競技は環境的・経済的理由から、他の競技と比較して個人的に取り組むには、困難な競技である。大学に入学後、馬術競技に取り組む場合が多く、大学選手の経験年数は一般的に少ないと考えられる。また、一流選手の平均競技経験年数は 23.4 ± 11.13 年であった。

2. 質問紙

1) 競技意欲検査

練習や試合に対する意欲や価値観などを捉えるために、日本体育協会競技意欲テスト（以下TSMI）⁴⁾を利用し、競技に対する意欲を示す7つの因子（競技達成動機、競技不安、自己統制能力、積極的思考、コーチとの人間関係、日常生活習慣、勝利への志向性）と17の下位尺度（目標への挑戦、技術向上意欲、困難の克服、練習意欲、失敗不安、緊張性不安、情緒安定性、精神的強靱さ、闘志、知的興味、競技価値観、計画性、努力への因果帰属、コーチ受容、対コ

表1 TSMIの因子及び下位尺度

No. 因子	下位尺度
1 競技達成動機	目標への挑戦、技術向上意欲、困難の克服、練習意欲
2 競技不安	失敗不安、緊張性不安
3 自己統制能力	情緒安定性、精神的強靱さ、闘志
4 積極的思考	知的興味、競技価値観、計画性、努力への因果帰属
5 コーチとの人間関係	コーチ受容、対コーチ不適応
6 日常生活習慣	不節制
7 勝利への志向性	勝利志向性

表2 DIPCA. 2の因子及び下位尺度

Na	因子	下位尺度
1	競技意欲	忍耐力, 闘争心, 自己実現意欲, 勝利意欲
2	精神の安定・集中	自己コントロール, リラックス, 集中力
3	自信	自信, 決断力
4	作戦能力	予測力, 判断力
5	協調性	協調性

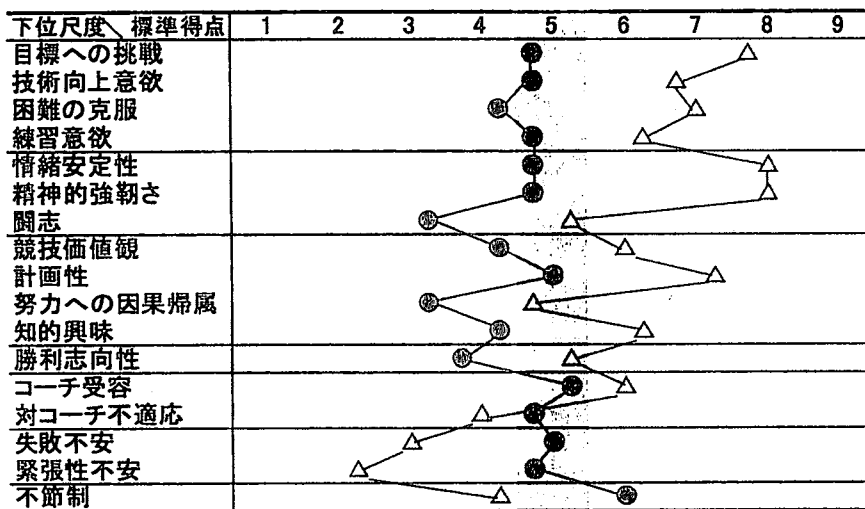


図1 大学馬術競技選手と一流馬術競技選手のTSMIプロフィール

注)●:大学馬術競技選手 △:一流馬術競技選手

一子不適応, 不節制, 勝利志向性) について各因子及び各尺度得点を算出した(表1)。

2) 心理的競技能力検査

競技中の精神力(心理的競技能力)を捉えるために, 徳永ら⁹⁻¹²⁾が開発したスポーツ選手の心理的競技能力診断検査(以下 DIPCA. 2)を利用した(表2)。DIPCA. 2は5つの因子(競技意欲, 精神の安定・集中, 自信, 作戦能力, 協調性)と12の下位尺度(忍耐力, 闘争心, 自己実現意欲, 勝利意欲, 自己コントロール, リラックス, 集中力, 自信, 決断力, 予測力, 判断力, 協調性)から構成されており, これらの各因子及び尺度の素点を算出した(表2)。

3. 解析方法

解析は, TSMI 及び DIPCA. 2の各下位尺度得点を算出し, 個人プロフィールを作成した。大

学選手と一流選手の各得点を比較するために, t-検定を行った。なお, 統計的有意水準は5%とした。

III. 結果

TSMI による17の下位尺度得点を大学選手と一流選手について比較した結果, コーチ受容, 及び対コーチ不適応を除く, 全ての下位尺度得点に有意差が認められた。失敗不安, 緊張性不安, 及び不節制において大学選手が有意に高く, それ以外の下位尺度において大学選手が有意に低かった(図1)。

DIPCA. 2による各下位尺度得点を算出し, 大学選手と一流選手の各得点について比較した結果, 勝利意欲を除く, 全ての下位尺度に有意差が認められ, 全ての下位尺度において大学選手

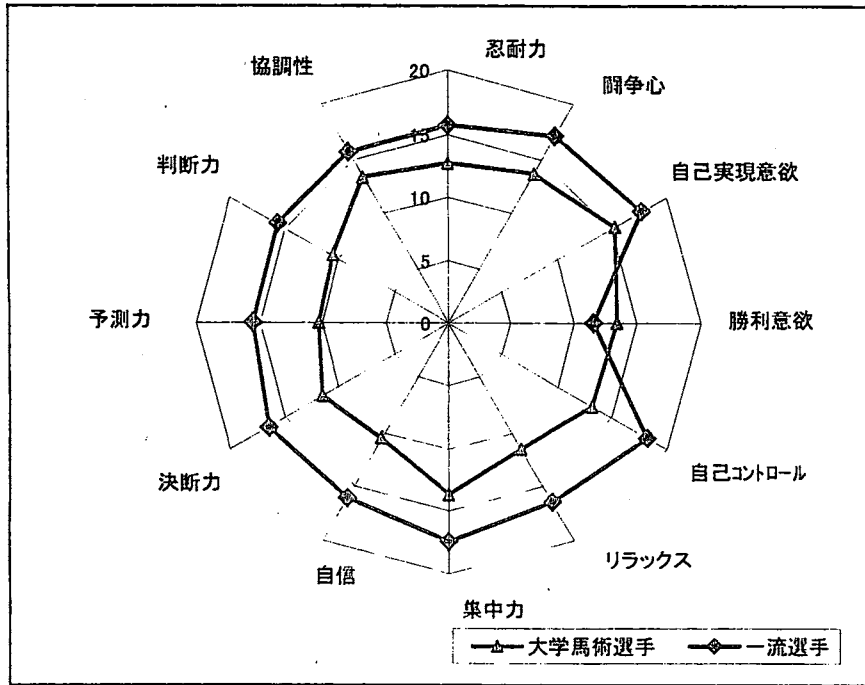


図2 DIPCA.2得点における大学馬術選手と一流選手との比較

表3 大学選手と一流選手のDIPCA.2得点の比較

		大学選手		一流選手		t
		mean	SD	mean	SD	
競技意欲	忍耐力	12.7	3.1	15.6	3.6	3.047 *
	闘争心	13.7	3.8	17.0	3.0	2.960 *
	自己実現意欲	15.2	3.4	17.7	2.1	2.567 *
	勝利意欲	13.4	3.6	11.6	4.6	1.614
精神の安定・集中	自己コントロール	13.2	3.2	18.2	2.5	5.337 *
	リラックス	11.5	4.1	16.5	3.8	4.074 *
	集中力	13.7	3.4	17.5	2.4	3.797 *
自信	自信	10.5	3.4	16.1	2.8	5.578 *
	決断力	11.5	3.4	16.5	3.0	5.004 *
作戦能力	予測力	10.3	3.1	15.5	3.3	5.456 *
	判断力	10.5	3.0	15.6	3.5	5.548 *
協調性	協調性	13.4	3.2	15.6	3.1	2.313 *
競技意欲		54.9	11.2	61.9	10.1	2.108 *
精神の安定・集中		38.4	9.9	52.1	8.3	4.708 *
自信		22.0	6.4	32.5	5.7	5.528 *
作戦能力		20.7	5.7	31.2	6.7	5.979 *
協調性		13.4	3.2	15.6	3.1	2.313 *

注) *: p<0.05

が有意に低かった。また、各因子の得点はいずれも一流選手が大学選手に比べ、有意に高かった(図2, 表3)。

IV. 考 察

馬術競技は複雑で困難な課題を正確に且つ素早く達成していかなければならないため、他の競技スポーツに比べ、心理的な要因が競技パフォーマンスに直接的に関与する競技と考えられる。我々は、先行研究において大学馬術競技選手(大学選手)の競技意欲、及び心理的競技能力について一般運動選手と比較し、大学選手の競技意欲、心理的競技能力が低いことを報告した⁶⁾。この結果について大学選手の競技経験年数が短いために馬術競技選手として必要な意欲や心理的競技能力が低いこと、馬術競技が他の競技種目と異なる競技特性を有していること、などが影響していると考えられた。よって、本研究では、大学選手と国内一流馬術競技選手(一流選手)と比較し、馬術競技選手として重要な心理的要因を明らかにすることを目的とした。

TSMI 得点から推定される競技意欲についてコーチ受容及び対コーチ不適応を除く、全ての下位尺度において一流選手が優れる傾向にあった。特に、他の競技種目の一流選手に認められる傾向^{1, 5, 6, 8, 14, 17)}と同様に、競技達成動機(目標への挑戦、技術向上意欲、困難の克服、練習意欲)、及び自己統制能力(情緒安定性と精神的強靱さ)は顕著に高く、競技不安(失敗不安と緊張性不安)は顕著に低く、大学選手と大きく異なっていた。コーチ受容と対コーチ不適応は練習、または普段の生活におけるコーチとの信頼関係や指示に対する従順さを示す下位尺度である⁴⁾。豊田¹³⁾はアーチェリー選手の下位群の方が上位群に比べ、コーチとの人間関係に優れることを報告しているが、本研究において大学選手、一流選手ともコーチとの関係は良好であり、競技レベルによる差はないと示唆される。一般的に馬術競技は、計画的な馬の調教が不可欠であること、また試合の戦術や作戦はコーチにより細かく指示されることから、コ

ーチの指示に従順であり、信頼関係が良好であることは重要なことであると考えられる。また、他の競技種目では、国内一流選手の勝利志向性はインカレ上位選手に比べ低いと報告されているが⁶⁾、本研究では一流選手の方が有意に高かった。勝利志向性は競技において勝利することを第一と考える傾向を示す項目であり、一流選手はほぼ平均(図1)であったが、本研究における大学選手はさらに低く、有意差が認められた。大学選手の中には、地区・県大会出場レベルの選手も含まれていたために勝利志向性が低かったと推測される。馬術競技は競技場面において騎手の技量とともに馬の調教を仕上げるかが重要となり、馬がいかなる色や形の障害にも驚かずに飛び越えるように調教されていなければならない。積極的思考因子の中で、一流選手の計画性が顕著に高かったことは、試合までの練習では、個人の技能練習とともに馬の調教も行わなければならない、馬の体調などを考慮して、より綿密に計画を立てて臨まなければならないことが反映していると考えられる。

大学選手、一流選手を含めた馬術競技選手の競技意欲特性として、大学選手、一流選手ともに闘志、努力への因果帰属、勝利志向性が低い傾向が窺えた。馬術競技は、相手を打ち負かそうとする他の競技スポーツとは異なり、馬の歩調、推進気勢などに注意しながら、冷静に一つ一つの課題を達成するという競技特性から、闘争心、勝利志向性が低いと推測される。

また、DIPCA. 2における勝利意欲、つまり試合前に勝利したいと強く思う傾向は、一流選手において、他の下位尺度に比べそれほど高くない、大学選手との間に差は認められなかったが、これはTSMIにおける勝利志向性と異なる傾向であった。TSMIの勝利志向性は「スポーツは楽しむことより勝つことに意義がある」、「スポーツは勝つことが最大の目的である」などの勝利に対する価値観を捉えるものであるのに対し、DIPCA. 2は「試合前には絶対負けられないと思っている」、「試合前には絶対に勝ちたいと思っている」などの試合前や試合中の勝利への意欲を主に捉えるものであり、尺度の意味が

異なる。つまり、勝利することの意義は一流選手の方が強い傾向にあるが、試合前に勝利にこだわることや試合内容より勝利を優先する傾向に差はないと考えられる。

DIPCA. 2による試合場面での心理的能力において、一流選手は大学選手に比べ、精神の安定・集中、自信、及び作戦能力において顕著に優れていた。これらの因子の得点は先行研究におけるその他の競技スポーツの選手と比較しても本研究の一流選手の得点の方が高かった^{2, 3, 7)}。馬術競技の特性を考慮すると、これらは競技パフォーマンスに、より密接に関与する心理的能力であると考えられ、大学選手において強化が必要であると考えられる。一流選手は大学選手と比較して、競技レベルだけでなく、競技経験年数も長かった。一般に競技経験年数が長くなるにつれ、競技意欲、心理的競技能力も高くなる傾向を示すが⁸⁾、特に競技経験年数によりTSMIにおける競技価値観、計画性、不節制、及び知的興味、DIPCA. 2における自己実現、予測力、判断力、及び協調性が高くなると報告されており、本研究の結果と一致していた。

以上より、大学選手は競技経験を積み技術的に習熟するとともに競技意欲、心理的競技能力の強化、特に競技達成動機、自己統制能力、計画性、競技不安、精神の安定・集中、自信、作戦能力の強化の必要性が示唆された。また、一流選手が相手を打ち負かそうとする闘志よりむしろ、自己を冷静に統制する能力、計画性や作戦能力に優れていたことは馬術競技の競技特性によるものと推測された。

今後、さらに馬術競技選手の心理特性調査を進め、競技経験年数、競技レベルの違いと心理特性との関係を検討する必要があると考えられる。

文 献

- 1) Auvergne, S. (1983) Motivation and causal attribution for high and low achieving athletes. *Int. J. Sports Psychology*. 14:85-91.
- 2) 半田洋平・高田正義 (1997) ハンドボール選手の心理的競技能力. 愛知学院大学教養部紀要 44 (3):25-31.
- 3) 日野和明 (1992) 空手道選手の心理的競技能力に関する研究. 西南学院大学児童教育学論集 18 (2):91-103.
- 4) 松田岩男・猪俣公宏・落合 愷・加賀秀夫・下山剛・杉原 隆・藤田 厚 (1981) スポーツ選手の心理的適性に関する研究-第3報-. 昭和56年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告IV
- 5) Mogan, W. P., Johnson, R. W. (1997) Personality characteristics of successful and unsuccessful oarsmen. *International Journal of Sports Psychology*. 9:119-133.
- 6) 日本軟式庭球連盟普及委員会科学研究班 (1984) 競技種目別競技力向上に関する研究-第8報-No.3軟式庭球. 昭和59年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 45-48.
- 7) 岡本昌也・高津浩彰・高田正義・寺田泰人 (1996) 社会人ラグビー選手の心理的競技能力について-競技成績・ポジションによる比較-. 愛知工業大学研究報告 31-A:23-26.
- 8) 杉原 隆 (1981) 女子スポーツ選手の経験年数からみた競技動機の特性. 昭和57年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 No.1:12-20.
- 9) 徳永幹雄・橋本公雄・高柳茂美 (1989) スポーツ選手の心理的競技能力に関する研究. *スポーツ心理学研究* 16:92-94.
- 10) 徳永幹雄・橋本公雄 (1989) スポーツ選手の心理的競技能力の診断とトレーニングに関する研究. *デサントスポーツ科学* 8:137-148.
- 11) 徳永幹雄・金崎良三・多々納秀雄・橋本公雄・高柳茂美 (1991) スポーツ選手に対する心理的競技能力診断検査の開発. *デサントスポーツ科学* 12:178-190.
- 12) 徳永幹雄・橋本公雄 (1993) 九健式心理的競技能力診断検査 (DIPCA. 2) -手引き- TOYO PHYSICAL.
- 13) 豊田一成 (1986) アーチェリー選手の心理的特性に関する研究. *スポーツ心理学研究* 13 (1):21-31.
- 14) 筒井清次郎 (1992) 競技意欲・競技不安と原因帰属の関係. *スポーツ心理学研究* 19 (1):26-31.
- 15) 吉村喜信・出村慎一・長澤吉則 (1991) 馬術競技選手の身体的・心理的特性. 北陸体育学会紀要 27:95-104.
- 16) 吉村喜信・出村慎一・山次俊介・佐藤 進・小林秀紹 (1998) 大学馬術競技選手における性格特性、競技特性、及び心理的競技能力. 日本体育学会測定評価分科会機関誌 サークュラー 59:59-68.
- 17) 吉沢洋二・岡沢祥訓・猪俣公宏 (1983) ホッケーの女子トッププレイヤーの心理的適性について. *Nagoya J. Health Fitness, Sports* 6 (1):113-120.